

パールの輝きで、理系女性が三重を元気に

(実施期間：平成 20～22 年度)

実施機関：三重大学（総括責任者：内田 淳正（豊田 長康））

プロジェクトの概要

女子高校生を理系進学に目覚めさせ、女子大学院生を多様なキャリアパスにチャレンジするようエンカレッジし、女性研究者のキャリア継続を保育園の整備やムードルによる在宅勤務によりサポートしていく。地域連携で県下の女性研究者を元気づけ、地域が元気になる仕組みを作る。これら推進策の一部を三重県下の理系女子学生、理系研究者を擁する機関と共同して行うことにより、大きな枠組みの中で三重大学の理系の女子学生、女性研究者の増加を目指し、また、県内の女性研究者に対する理解を深めるとともに、三重県全体の活性化へと繋いでいく。

(1) 評価項目

総合評価	目標達成度	システム改革の成果	取組	波及効果	実施体制	実施期間終了後における取組
S	a	s	s	s	a	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

三重県内の他機関と協力体制を確立し、連携を活発に行うことにより、連携機関の女性研究者の環境改善及び増加につなげており、他の地方国立大学のモデルとなる取組であり高く評価できる。

目標達成度：これまで女性がゼロだった部局に女性教員が複数誕生し、女性教員数が倍増するとともに、女性理事及び女性評議員が誕生している。また、7連携機関の多くで女性研究者が着実に増加しており、所期目標を達成しており、評価できる。

システム改革の成果：全学の専門委員会と女性研究者支援室の両輪を有効に機能させることにより、プロジェクト実施機関のみならず連携機関のシステム改革を進め、女性研究者の研究能力の向上、女性研究者の増加につなげていることは高く評価できる。

取組：プロジェクト実施機関を中心に県内7教育研究機関が連携して女性研究者支援、次世代育成に取り組み、成果を上げている点が高く評価できる。

波及効果：地域連携を掲げ、地域の7機関連携により女性研究者支援モデルを構築するとともに、三重県男女共同参画センターとも連携を図っており、地域連携の新たな取組形態として他機関への波及効果が大きいと高く評価できる。

実施体制：他大学、研究所、高専など体制の全く異なる事業体を連携させる実施体制を構築し、従来とは全く異なる地域の機関連携を具現化しており、担当理事、学長の下で連携が組織化されている点も評価できる。

実施期間終了後における取組：女性研究者支援のための予算措置がなされており、継続性が担保

されており、評価できる。女性研究者支援の必要性の高い学科内に別途推進室が置かれるなど、終了後も発展性が期待できる。